

## 第2章

# 二本松市の概況と環境問題

## 第2章 二本松市の概況と環境問題

### 1. 地域の概況

#### (1) 位置

本市は、県庁所在地の福島市と郡山市の間に位置し、市の中心から国道4号で福島・郡山市ともに約30分程度の距離にあります。また、国道459号は国道114号を介して太平洋側の浪江町へと伸びています。

市域は南北約17km、東西約36kmと東西に長い形で面積は344.42km<sup>2</sup>です。

地勢は西部の安達太良山麓、中央部の平坦地、東部の阿武隈地域の3地帯に分類されます。西部の安達太良山麓は、奥羽山系に属する安達太良山(1,699.6m)の麓に広がる地域です。中央部の平坦地は、圏域を北流する阿武隈川を中心とする地域で、標高は200~300m程度です。東部の阿武隈地域は、阿武隈山系の北部に位置し、最も高い山は日山(天王山1,057.6m)であり、全体的に丘陵状の起伏の多い地形となっています。



## (2) 気候

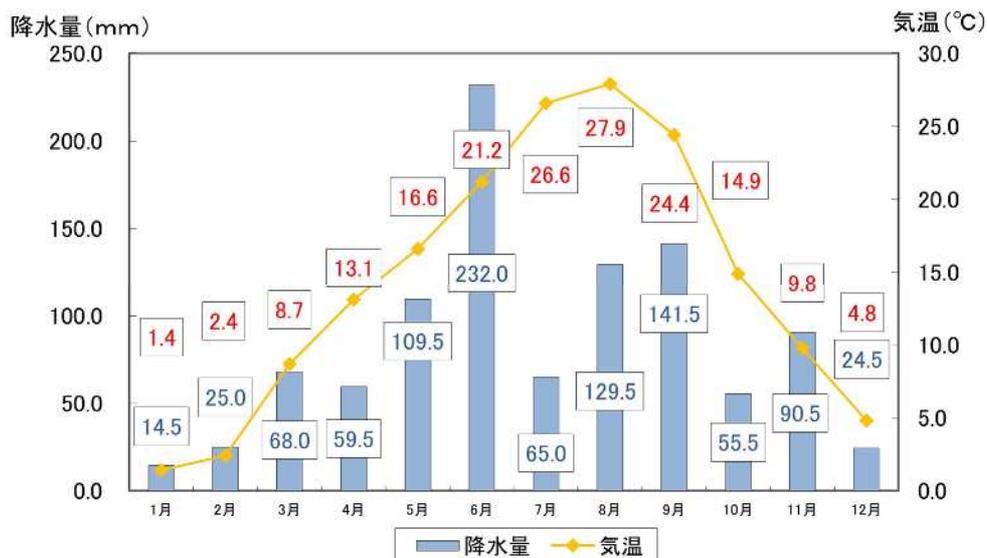
本市の過去10年間（平成26年～令和5年）の平均気温は13.1度で、平均年間降水量は1,143mmと全国平均の約1,700mmと比較すると少なくなっています。1月、2月の寒冷期には平均気温が1～2度程度となり、最低気温でマイナス5度を下回る日もあり、最高気温は5月から9月上旬にかけて30度を超える日が続くことがあります。

近年は気候変動の影響により、気温の上昇、大雨の頻度の増加、熱中症リスクの増加など影響が現れています。

【気温・降水量の推移（年間平均値）】



【月別気温・降水量の推移（令和5年）】



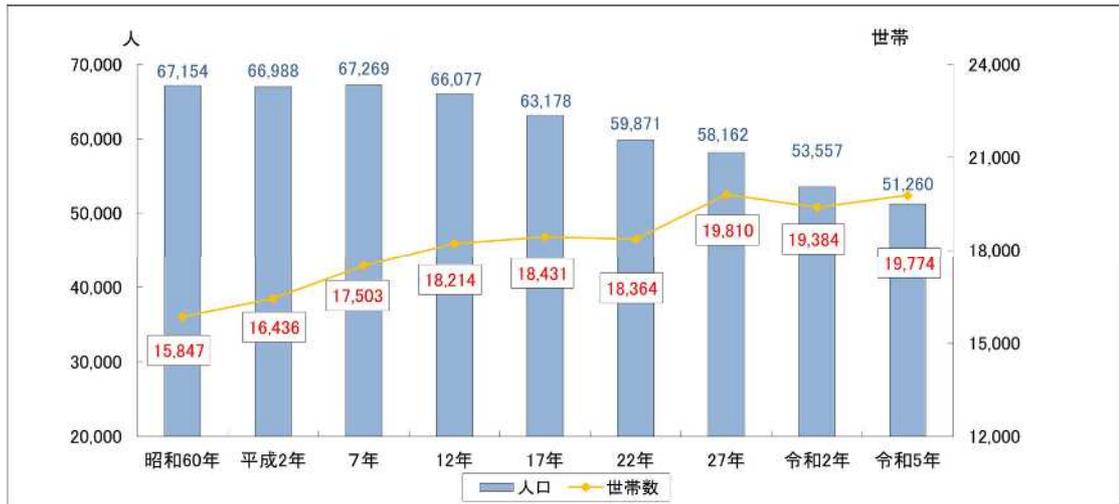
(資料：気象庁 二本松アメダス観測所－金色久保地内)

### (3) 人口、世帯数

本市は、平成17年12月1日に旧二本松市・安達町・岩代町・東和町が合併し誕生しました。令和5年10月1日現在の人口は51,260人、世帯数19,774世帯となっています。

近年、人口は減少傾向にあるため、中心市街地活性化や良好な市街地の形成などの居住環境整備をはじめ、子どもを産み育てやすい環境の整備などにより定住化を図っています。

【人口・世帯数の推移】

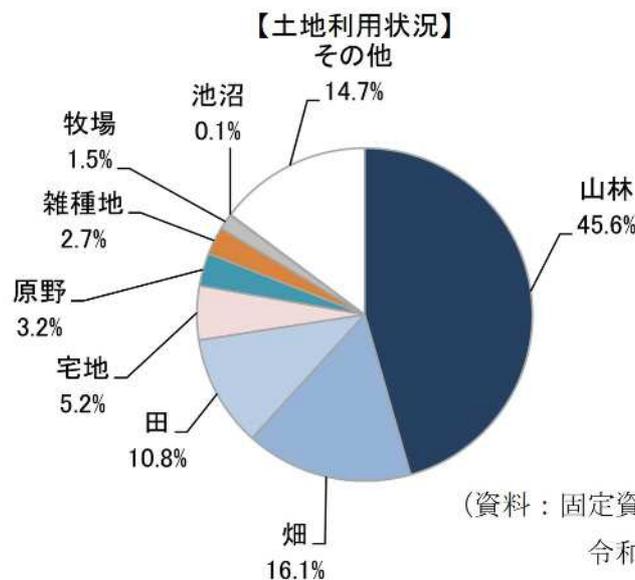


(資料：現住人口調査：各年10月1日)

### (4) 土地利用

本市の面積は合併に伴い344.42km<sup>2</sup>となり、そのうち45.6%を山林が占め、次いで「畑」と続きます。

安達太良山をはじめとする豊かな自然を背景にした環境といえます。



(資料：固定資産概要調書(土地)  
令和5年1月1日現在)

## (5) 産業

本市の産業別従業者数は、総人口の減少を受け、平成8年以降減少傾向にありましたが近年は増加傾向です。

【産業別従業者数】



【産業別事業所数】



(資料：事業所・企業統計調査、経済センサス)

## (6) 交通

自動車保有台数は、近年では若干の減少傾向にあります。

令和4年度において、乗用車と軽自動車の合計は44,852台で、1.2人に1台、1世帯で2.3台の自動車を保有している状況にあります。

【自動車保有台数の推移】



(資料：東北運輸局福島運輸支局 福島県内市町村別自動車数調)

## 2. 環境の現状

### (1) 大気

本市では、福島県二本松合同庁舎において浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントの測定をしております。近年では、両物質ともに比較的值が一定していて、微小変動で推移しています。

【浮遊粒子状物質及び光化学オキシダント濃度の年平均値の推移】

調査項目	年平均値					環境基準
	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.011	0.013	0.012	0.009	0.008	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
光化学オキシダント (ppm)	0.045	0.046	0.044	0.043	0.044	1時間値が0.06ppm以下であること。

※光化学オキシダント濃度は昼間(5~20時)の日最高1時間値の平均値です。

(資料：福島県水・大気環境課)

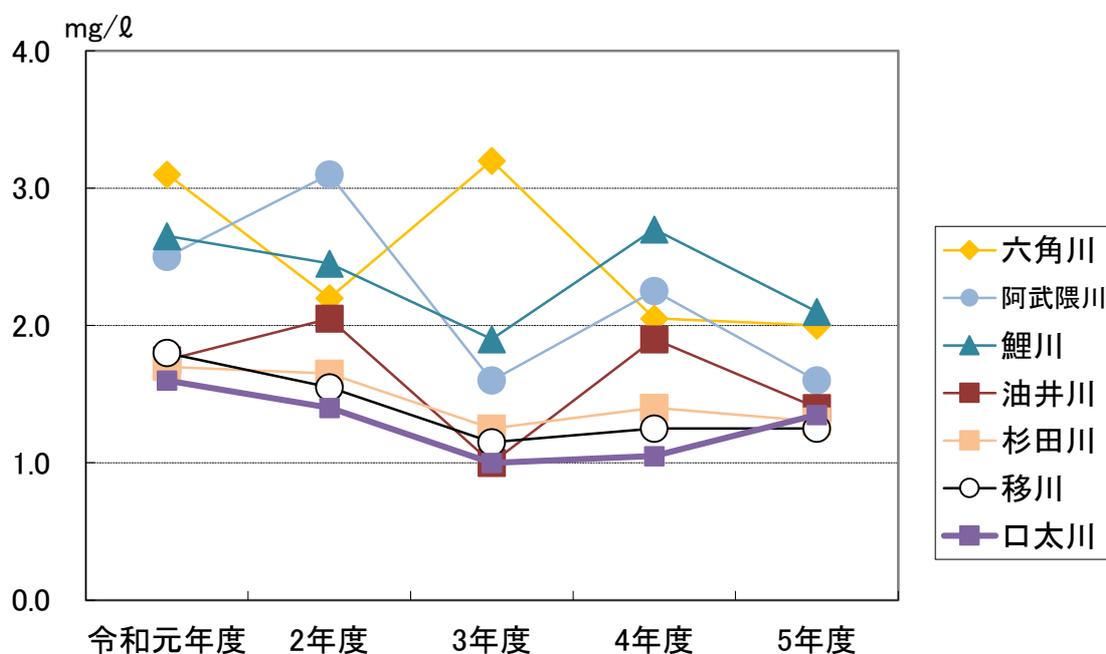
## (2) 水質

阿武隈川には達成することが望ましい基準として、法に基づく環境基準、BOD（生物化学的酸素要求量）が3mg/ℓ以下と定められています。その他の河川に対しての基準は定められていませんが、環境基準を大きく下回っている河川が多く、汚濁負荷の少ない良好な状態が維持されています。

【河川水質調査結果(BOD 値)の推移】

水系	測定箇所	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	環境基準
六角川	塞の神橋	3.1	2.2	3.2	2.1	2.0	3以下
阿武隈川	智恵子大橋	2.5	3.1	1.6	2.3	1.6	
鯉川	鯉川橋	2.7	2.5	1.9	2.7	2.1	
油井川	油井川橋付近	1.8	2.1	1.0	1.9	1.4	
杉田川	杉田橋	1.7	1.7	1.3	1.4	1.3	
移川	移川橋付近	1.8	1.6	1.2	1.3	1.3	
口太川	口太橋	1.6	1.4	1.0	1.1	1.4	

(単位：mg/ℓ)



(資料：二本松市生活環境課)

### (3) 廃棄物

本市の廃棄物排出量は、令和4年度において、総量は16,711t/年、一人1日あたり879.2gでした。

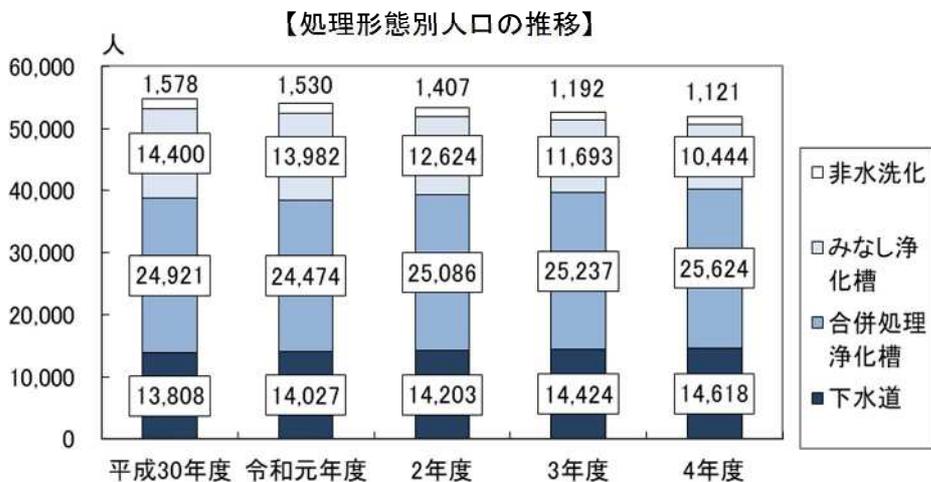
本市では5種19分別を実施しています。ごみの指定袋は5種類（可燃ごみ、ビニール・プラスチックごみ、プラスチック製容器包装、破砕するごみ、埋立てごみ・衣類）として、ごみの減量化と資源化に取り組んでいます。



### (4) 下水道・合併処理浄化槽

下水道は汚水が河川などに直接排出されることを防ぎ、水環境をよみがえらせる働きをします。

本市の下水道は、流域関連公共下水道事業（二本松、安達処理区）及び特定環境保全公共下水道（岳、岩代処理区）により水環境の保全を図っています。また、下水道の未整備地域については、平成4年度から合併処理浄化槽の新設、くみ取り便槽や単独処理浄化槽からの転換を推進するため補助を行っています。



(資料：二本松市生活排水処理基本計画：各年3月31日現在人口)

## (5) 騒音・振動

工場や事業所、建設作業などから発生する騒音・振動については、関係法令により規制され遵守されている状況にあります。特に騒音は、直接人間の感覚に影響を与えることから「感覚公害」ともいわれ、自動車騒音、事業者・工場騒音などに加え、日常の家庭生活に起因する騒音など、発生源はさまざまです。

環境騒音調査及び自動車騒音調査では過去に基準を超えた箇所もありましたが、最近では環境基準以下の数値を示しており、改善の傾向にあると思われまます。

しかし、東北新幹線、東北自動車道における騒音については、環境基準を超えている箇所が依然としてあり、その改善に向けて引き続き事業者などに要望していくこととしています。

### ① 環境騒音調査

道路に面しない地域（一般地域）での環境騒音を市内3ヶ所で測定

(単位：デシベル)

観測地点	環境基準 類型	騒音レベル										環境基準	
		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度			
		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
若宮一丁目地内	C類型	50.4	42.7	50.5	43.8	50.7	44.4	50.6	44.0	50.0	43.1	60	50
金色地内	B類型	49.5	40.8	49.6	43.1	49.0	43.7	49.4	41.8	48.7	41.6	55	45
表一丁目地内	A類型	49.3	40.1	49.3	41.5	48.7	41.3	46.8	39.9	47.1	38.8	55	45

(資料：二本松市生活環境課)

### ② 自動車交通騒音実態調査

幹線道路に面する地域での自動車騒音を市内3ヶ所で測定

(単位：デシベル)

観測地点	環境基準 類型	騒音レベル										環境基準	
		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度			
		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
若宮二丁目地内	C類型	66.6	59.7	62.2	55.2	61.2	52.2	64.0	56.4	63.6	56.4	70	65
金色地内	B類型	62.0	53.1	61.9	54.4	61.9	55.1	60.3	51.0	61.1	52.3	70	65
表一丁目地内	A類型	64.3	52.0	63.0	52.7	63.0	52.1	61.6	50.6	62.9	52.2	70	65

(資料：二本松市生活環境課)

## (6) 放射線

二本松市役所、安達支所、岩代支所、東和支所のモニタリングポストなどにおける測定結果によると、平成27年度以降は、これら4箇所において、毎時0.23マイクロシーベルトを下回っています。

### 【環境放射線量測定値の推移】

観測地点	単位：μSv/h（毎時マイクロシーベルト）								
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	基準
二本松市役所	0.21	0.18	0.15	0.14	0.13	0.12	0.12	0.11	0.23
安達支所	0.12	0.11	0.09	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	
岩代支所	0.17	0.15	0.13	0.12	0.11	0.11	0.10	0.10	
東和支所	0.15	0.14	0.12	0.11	0.10	0.10	0.09	0.09	

※各年度の日平均値です。

(資料：二本松市生活環境課)

## (7) 温室効果ガス排出量

本市の温室効果ガスの年間排出量についての環境省の推計データでは、直近の総計で397千t-CO<sub>2</sub>（令和2年度）となります。過去の推移を見ると450千t-CO<sub>2</sub>前後で推移していましたが、令和2年度には新型コロナウイルスの感染拡大に伴う人流減少などにより大きく減少しています。

部門別の比率では、産業部門が最も多く38.3%を占める結果となり、福島県の比率と比較しても産業部門が多い結果となります。

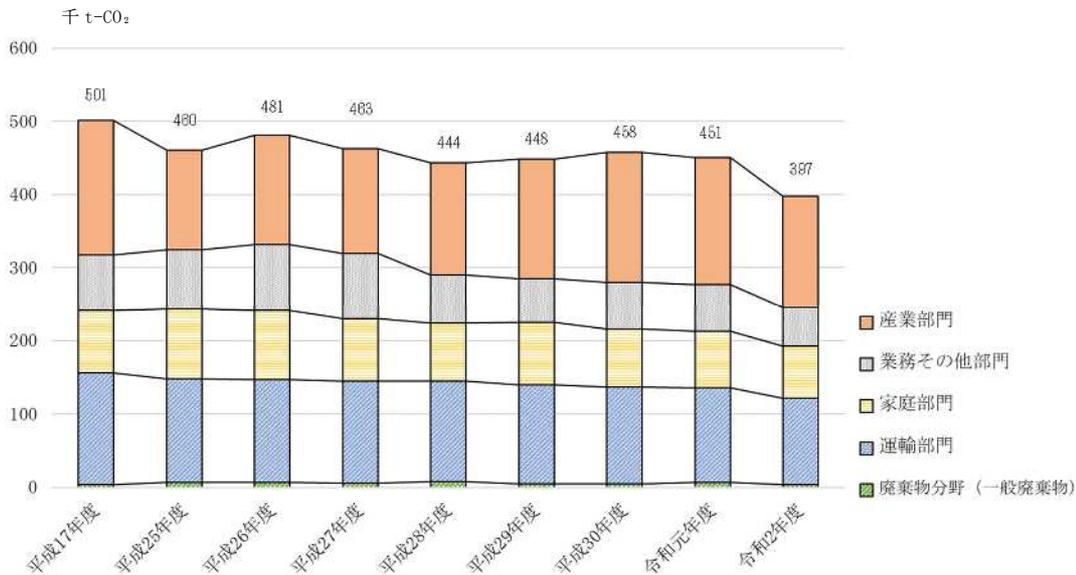
### 【温室効果ガス排出量の推移】

(単位：千t-CO<sub>2</sub>)

部門・分野	H17年度 排出量	H25年度 排出量	H26年度 排出量	H27年度 排出量	H28年度 排出量	H29年度 排出量	H30年度 排出量	R元年度 排出量	R2年度 排出量
合 計	501	480	481	483	444	448	458	451	397
産業部門	184	138	148	143	154	163	177	174	152
製造業	163	123	133	127	137	145	161	158	135
建設業・鉱業	8	5	6	6	6	7	6	6	6
農林水産業	13	7	9	10	10	11	10	10	11
業務その他部門	76	81	91	90	65	61	64	64	52
家庭部門	85	95	95	85	80	85	79	77	72
運輸部門	152	141	139	139	137	135	132	129	118
自動車	148	137	135	135	133	131	129	126	114
旅客	74	69	67	66	66	65	63	61	53
貨物	74	68	68	69	67	67	66	65	61
鉄道	4	5	4	4	4	4	4	3	3
船舶	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃棄物分野（一般廃棄物）	4	7	7	6	7	4	5	7	4

(資料：環境省 地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト)

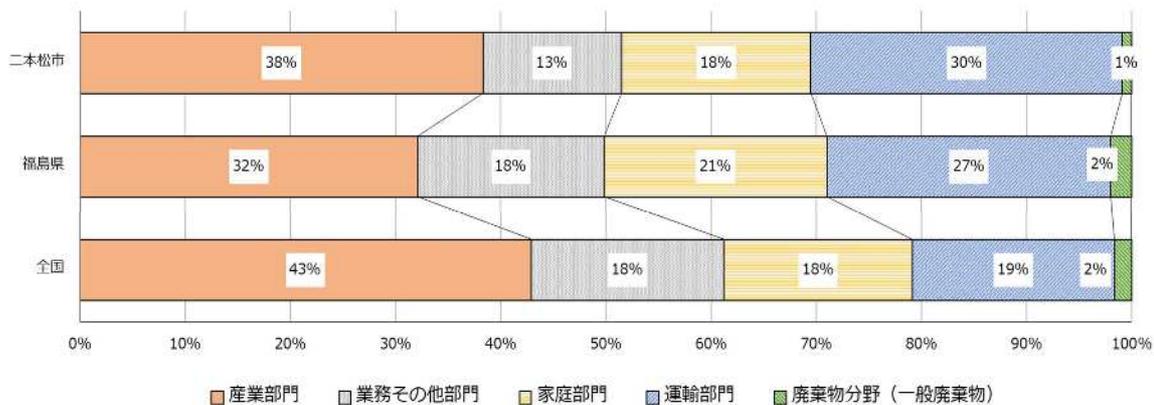
### 【温室効果ガス排出量の推移】



(資料：環境省 地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト)

### 【温室効果ガスの部門別比率の比較】

(令和2年度)



(資料：環境省 地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト)

## (8) 動植物の概況

### ① 植物

#### ア. 植生

中央部の阿武隈川流域では、コナラ群落、水田雑草群落がモザイク状で広範囲に分布しています。

二本松地域の西部では、安達太良山周辺に自然度の高い植生が残されており、寒帯、高山帯の自然植生である高山ハイデ及び風衝草原やブナクラス域自然植生であるクロベ－ヒメコマツ群落、イタドリ－コメススキ群落が分布しています。また、岩代地域東部の日山やその周辺には、スズタケ型ブナ林が小規模ながら残されています。福島県植物誌では、阿武隈山地の上部の自然的特徴を指標するものとして貴重であると述べています。

#### イ. 注目すべき植物

文献による調査結果から、本市で確認されているふくしまレッドリスト（2022年版）に記載されている植物種は全部で29科41種です。

山地性の種であるミヤマツチトリモチ、アケボノシュスラン、水辺にみられるミズニラ、草地にみられるツルカコソウなど、本市が多様な環境を有していることがうかがえます。



【注目すべき植物種】

分類群	科名	種名	ふくしまレッドリスト
維管束植物	ミズニラ	ミズニラ	準絶滅危惧
	ヒノキ	ヒノキ	準絶滅危惧
		イブキ	準絶滅危惧
	イチイ	イチイ	準絶滅危惧
		キャラボク	準絶滅危惧
	ブナ	アラカシ	準絶滅危惧
		ツクバネガシ	絶滅危惧ⅠB類
	イラクサ	イラクサ	準絶滅危惧
	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	絶滅危惧Ⅱ類
	タデ	ノダイオウ	絶滅危惧ⅠB類
	ナデシコ	ワダソウ	絶滅危惧Ⅱ類
	クスノキ	ヤマコウバシ	準絶滅危惧
	キンポウゲ	レンゲショウマ	準絶滅危惧
	ツバキ	サカキ	準絶滅危惧
	オトギリソウ	オクヤマオトギリ	絶滅危惧Ⅱ類
	アブラナ	イワハタザオ	絶滅危惧Ⅱ類
	ユキノシタ	クロクモソウ	絶滅危惧Ⅱ類
	バラ	キビナワシロイチゴ	準絶滅危惧
	マメ	ケヤブハギ	絶滅危惧Ⅱ類
		イヌハギ	絶滅危惧ⅠA類
	カエデ	オオイタヤメイゲツ	準絶滅危惧
	ミソハギ	ヒメミソハギ	絶滅危惧ⅠB類
	ツツジ	イソツツジ	準絶滅危惧
	サクラソウ	サクラソウ	絶滅危惧ⅠB類
	モクセイ	ヒイラギ	準絶滅危惧
	リンドウ	オヤマリンドウ	準絶滅危惧
	シソ	ツルカコソウ	絶滅危惧ⅠB類
	ゴマノハグサ	エゾコゴメグサ	情報不足
		イヌノフグリ	絶滅危惧ⅠB類
	オミナエシ	カノコソウ	絶滅危惧Ⅱ類
	キク	オナモミ	絶滅危惧ⅠA類
	ユリ	マルバサンキライ	絶滅危惧Ⅱ類
	カヤツリグサ	ヤマタヌキラン	準絶滅危惧
		ミヤマクロスゲ	絶滅危惧Ⅱ類
		ヌイオスゲ	絶滅危惧Ⅱ類
	ラン	エビネ	絶滅危惧Ⅱ類
		キバナノアツモリソウ	情報不足
		スズラン	絶滅危惧Ⅱ類
		アケボノシュスラン	準絶滅危惧
		コフタバラン	絶滅危惧Ⅱ類
		トキソウ	準絶滅危惧

## ② 動物

### ア. 注目すべき哺乳類

文献による調査結果から、本市で確認されているふくしまレッドリスト（2022年版）に記載されている哺乳類は全部で5科6種です。

高地にみられるカワネズミ、ヤマネ、オコジョなどが確認されていて、中でもヤマネは国の天然記念物に指定されています。

【注目すべき哺乳類】

区分	科名	種名	ふくしまレッドリスト
哺乳類	トガリネズミ	カワネズミ	情報不足
	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ	情報不足
	ヤマネ	ヤマネ	情報不足
	ネズミ	スミスネズミ	情報不足
	イタチ	イイズナ	情報不足
		オコジョ	情報不足

### イ. 注目すべき鳥類

文献による調査結果から、本市で確認されているふくしまレッドリスト（2022年版）に記載されている鳥類は全部で17科32種です。

オオタカ、サシバなどの猛禽類が多く、その生息を支えることができる多様で豊かな自然が残されていることがうかがえます。

【注目すべき鳥類】

区分	科名	種名	ふくしまレッドリスト
鳥類	キジ	ウズラ	絶滅危惧ⅠA類
	サギ	ヨシゴイ	絶滅危惧Ⅱ類
		オオヨシゴイ	絶滅危惧ⅠA類
		ササゴイ	準絶滅危惧
		アマサギ	準絶滅危惧
		コサギ	準絶滅危惧
	クイナ	ヒクイナ	絶滅危惧ⅠB類
		バン	準絶滅危惧
	カッコウ	カッコウ	準絶滅危惧
	シギ	ハマシギ	準絶滅危惧
	カモメ	コアジサシ	絶滅危惧ⅠB類
	タカ	ハチクマ	準絶滅危惧
		ハイタカ	準絶滅危惧
		オオタカ	絶滅危惧Ⅱ類
		サシバ	準絶滅危惧
	フクロウ	アオバズク	絶滅危惧Ⅱ類
	ハヤブサ	チョウゲンボウ	準絶滅危惧
		ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類
	サンショウクイ	サンショウクイ	準絶滅危惧
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	準絶滅危惧
	モズ	チゴモズ	絶滅危惧ⅠA類
		アカモズ	絶滅危惧ⅠA類
	ヒバリ	ヒバリ	準絶滅危惧
	ヨシキリ	オオヨシキリ	準絶滅危惧
		コヨシキリ	準絶滅危惧
	セッカ	セッカ	準絶滅危惧
	ヒタキ	マミジロ	準絶滅危惧
		トラツグミ	準絶滅危惧
		クロツグミ	準絶滅危惧
		アカハラ	準絶滅危惧
		コサメビタキ	準絶滅危惧
	ホオジロ	ホオアカ	絶滅危惧Ⅱ類

## ウ. 注目すべき両生類・爬虫類

文献による調査結果から、本市で確認されているふくしまレッドリスト（2022年版）に記載されている両生類は5科7種、爬虫類は3科6種です。

山地性のサンショウウオ類やモリアオガエル、田んぼ周りに多いヒバカリやヤマカガシ、河川上流域に多いカジカガエルが確認され、本市の環境の豊かさがうかがえます。

【注目すべき両生類・爬虫類】

区分	科名	種名	ふくしまレッドリスト
両生類	サンショウウオ	クロサンショウウオ	準絶滅危惧
		トウホクサンショウウオ	準絶滅危惧
	イモリ	アカハライモリ	準絶滅危惧
	ヒキガエル	アズマヒキガエル	準絶滅危惧
	アカガエル	ニホンアカガエル	準絶滅危惧
	アオガエル	モリアオガエル	地域個体群
		カジカガエル	準絶滅危惧
爬虫類	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	準絶滅危惧
	ナミヘビ	ジムグリ	情報不足
		ヒバカリ	準絶滅危惧
		シロマダラ	準絶滅危惧
		ヤマカガシ	準絶滅危惧
	クサリヘビ	ニホンマムシ	準絶滅危惧

## エ. 注目すべき魚類

文献による調査結果から、本市で確認されているふくしまレッドリスト（2022年版）に記載されている魚類は全部で8科10種です。

本市では、スナヤツメ、ギバチなど主に中流域から上流域に生息する種からイワナのよ  
うな主に源流域に生息する種までみられ、河川環境が多様であることがうかがえます。

【注目すべき魚類】

区分	科名	種名	ふくしまレッドリスト	
魚類	ヤツメウナギ	スナヤツメ	絶滅危惧 I B 類	
	ウナギ	ニホンウナギ	情報不足	
	サケ	イワナ	絶滅のおそれのある地域個体群	
	コイ	タナゴ	絶滅危惧 I B 類	
	ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ	情報不足
			ヒガシシマドジョウ	準絶滅危惧
			ホトケドジョウ	絶滅危惧 II 類
	ギギ	ギバチ	絶滅危惧 I B 類	
	メダカ	ミナミメダカ	絶滅危惧 I B 類	
カジカ	カジカ*	絶滅危惧 I B 類		

※カジカは大卵型、中卵型、小卵型に分類され、福島県レッドリストに記載されているのは大卵型です。本市で確認されているカジカの分類は不明です。

オ. 注目すべき昆虫類

文献による調査結果から、本市で確認されているふくしまレッドリスト（2022 年版）に記載されている昆虫類は 6 科 6 種です。

タガメ、ヒメギフチョウ、ツマグロキチョウなど里山を代表する種が確認されているほか、生息場所が河原に限定されるカワラハンミョウが確認されています。

【注目すべき昆虫類】

区分	科名	種名	ふくしまレッドリスト
昆虫類	コオイムシ	タガメ	準絶滅危惧
	オサムシ	カワラハンミョウ	絶滅危惧 II 類
	ハムシ	オオルリハムシ	準絶滅危惧
	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ	絶滅危惧 I 類
	シロチョウ	ツマグロキチョウ	準絶滅危惧
	タテハチョウ	ヒョウモンチョウ	絶滅危惧 II 類

※ふくしまレッドリスト（2022年版）とは、福島県内に生息・生育する絶滅のおそれのある動植物種を絶滅の危険性に応じて以下のカテゴリーに分類し、リストとしてまとめたものです。

- 絶滅危惧Ⅰ類 : 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
- 絶滅危惧ⅠA類 : ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
- 絶滅危惧ⅠB類 : ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
- 絶滅危惧Ⅱ類 : 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。
- 準絶滅危惧 : 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。
- 情報不足 : 評価するだけの情報が不足しているもの。
- 絶滅のおそれのある地域個体群 : 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。

### ③ 市内における外来生物の状況

日本古来の在来生物の存在を脅かすものとして、外来生物の存在が問題となっています。外来生物は海外から入ってきた生物であり、身近なところで生育域を拡大しています。

平成16年度に制定された「特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律」では、特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命・身体の保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することとされています。

市内では以下の特定外来生物が確認されています。

区分	種名	概況
植物	オオキンケイギク	黄色の目立つ花で、市内各所で見られます。道端や庭、花壇などにも植えられており、宿根と種で増えます。
	オオハンゴンソウ	市内各所で見られます。耕作放棄地や土手などに集団で黄色の花を咲かせます。宿根と種で増えます。
	アレチウリ	市内各所の道路法面や荒地で見られ、種子で繁殖します。
哺乳類	アメリカミンク	市内で目撃情報があります。
	アライグマ	市内で目撃情報があります。
鳥類	ガビチョウ	市内各所で確認されています。
両生類	ウシガエル	市内の一部区域で生息が確認されています。
魚類	ブラックバス	市内の河川、沼などで確認されています。
	ブルーギル	

### ④ 市内における有害鳥獣の状況

人口減少や高齢化、放射能汚染などにより、人々による里山への介入が縮小し荒れた雑木林を生息場所とするイノシシ、ハクビシンなどの有害鳥獣の分布域が増加しています。

また、それに伴い野生動物と人の生活圏が接近し、農地が荒らされるなどの深刻な被害をもたらすようになってきました。

本市では、イノシシ、ハクビシン、カラス、ツキノワグマなどによる農作物被害が発生しています。特にイノシシによる農作物被害が顕著であり、阿武隈川以東の岩代・東和地域をはじめ、最近では阿武隈川以西の二本松・安達地域でも、出没報告や被害報告が増加しています。

### 3. 市民、事業者などの環境意識

平成 30 年 3 月の第 2 次環境基本計画策定時にアンケート調査を実施しました。本市の環境の現況や長所・短所などを明らかにすることで、問題点・課題などを把握し、環境基本計画をできる限り市民などの要望を取り入れたものにするためのものです。

アンケート調査は市民（1,800 人）、小学生（全小学 5 年生）、事業所（150 事業所）を対象として行いました（回答率：市民 41.8%、児童 100%、事業所 49.3%）。

#### （1）市民

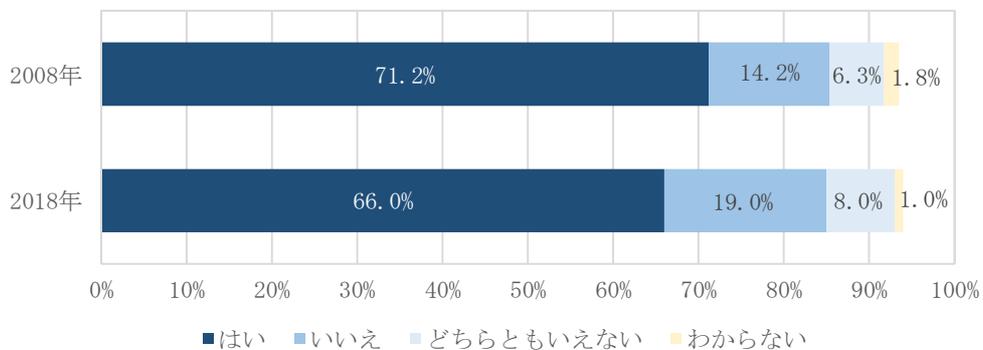
##### ① 本市の環境の状況について

市全体の環境の状況については、「不法投棄やポイ捨てが気になる」との意見が多く、次いで「空き地の雑草や空き家の問題が気になる」の順になっています。環境美化に対する市民の意識が高いことがうかがえます。

#### 10 年前との比較

「地域の環境について最近どのように感じておりますか」の質問に対して、不法投棄やポイ捨てを気にしていると回答した市民が、10 年前と比較すると 5 ポイント程度低い結果となりましたが、依然として多くの市民が関心を寄せていることがうかがえます。

【不法投棄やポイ捨てを気にしていると回答した市民の割合】



(2008 年 : N=761 人、2018 年 : N=753 人)

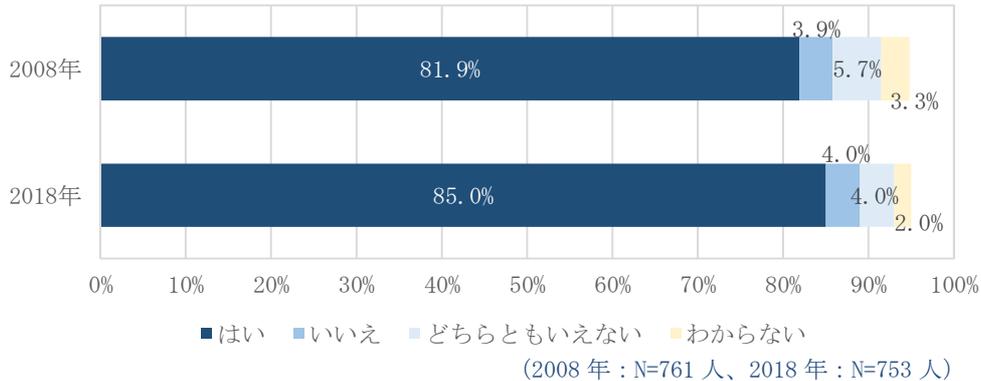
##### ② 地球環境問題について

地球環境問題については、「地球温暖化が気になる」との意見が最も多く、次いで「ゲリラ豪雨による災害が気になる」の順になっています。これらの環境問題は、頻繁にマスメディアにおいて取り上げられ情報量が多いことと、体感的に感じている市民が多いことから関心が高まっているものと考えられます。

## 10年前との比較

「地球環境問題についてどのように感じていますか」の質問に対して、地球温暖化が気になると回答した市民が、10年前と比較すると3ポイント程度高い結果となりました。

【地球温暖化が気になると回答した市民の割合】



### ③ 環境保全への取り組みについて

環境保全の取り組みは、「使わない部屋の照明を消している」、「ごみの分別は確実にやっている」、「行楽でのごみは持ち帰っている」、「洗剤やシャンプーなどは詰替え品を買っている」、「水道は出しっぱなしにしないようにしている」については80%以上の市民がいつも取り組んでいると回答しています。市民の環境保全への意識の高さがうかがえます。

### ④ 環境問題に取り組む場合の問題点について

環境問題に取り組む場合の問題点については、「環境問題についての情報が不足している」という意見が最も多く、次いで「何をやったらいいのかわからない」の順になります。環境問題に対して取り組む意識はあっても、具体的な取り組み方についての情報が不足し、行動に結びついていない状況がうかがえます。

### ⑤ 環境問題を守るための負担や労力について

環境問題を守るための負担や労力については、「地域活動を通じて労力を提供する」、「多少不便でもライフスタイルを変える努力をする」と回答した市民は50%を超えており、環境改善のために協力的な市民が多いことがうかがえます。

## ⑥ 環境教育や環境学習について

環境教育や環境学習については、「学校教育の中で子ども達への環境教育を実施する」という意見が最も多く、次いで「身近な生き物の調査、川の水質の調査などを積極的に行い、市民の意識を高める」、「市民がいつでも使えるよう環境についての情報を整備する」の順になっています。学校教育の一環として環境教育を進めてほしいと考える市民が多い結果となっています。

## ⑦ 企業や事業所に期待することについて

企業や事業所に期待することについては、「ごみの適正な処理、リサイクルの推進」、「大気、水質、騒音などの公害に対する取り組みの強化」、「電気、燃料、水などの省エネルギー活動の強化」、「商品などに対する過剰包装の抑制」及び「再生可能エネルギー（太陽光発電等）などの積極的な利用」という意見が 50%以上となっており、企業や事業所への環境保全に対する社会的要請が高まっていることがうかがえます。

## ⑧ 本市の将来環境について

本市の将来環境については、「ごみの無いきれいなまち」という意見が最も多く、次いで「川がきれいなまち」、「空気のすんだまち」、「文化財など歴史・文化を大切にすまち」の順になっています。本市の環境の状況について「不法投棄やポイ捨てが気になる」と答えた市民が多いことも踏まえ、本市では、ごみの無いきれいなまちを願う市民が多いことがうかがえます。

また、本市の将来環境を実現するため市に望むことは、「環境教育・学習の実施・支援」という意見が突出して多くなっています。多くの市民は、環境問題を解決するには教育・学習が重要との認識を持っていると考えられます。

## (2) 小学生

### ① 家の周りの環境について

家の周りで遊ぶことができる場所については、「ともだちと遊べる公園がある」という意見が最も多く、次いで「散歩や虫とりができる林がある」の順になっています。

また、家の周りには、「トカゲのなかま」や「カブトムシ・クワガタのなかま」など多くの種類の生き物が身近でみられ、生き物の生息に適した環境が残されていることがうかがえます。

家の周りで気になる環境問題としては「川や道路などにごみが捨てられていること」という意見が最も多く、各地区でごみのポイ捨てが多いと考えられます。

### ② 地球環境問題について

地球環境問題については、「放射線のこと」を気にしているという意見が最も多く、福島第一原子力発電所事故後の放射線問題は、子ども達の間でも不安要素になっていることがうかがえます。次いで「地球の温暖化のこと」という意見が多くなっています。

### ③ 環境保全への取り組みについて

環境を守るために普段から気をつけていることは「水をだしっぱなしにしないこと」という意見が最も多く、次いで「ごみは決められた場所以外には捨てないこと」、「物を大切に使うこと」の順になっています。環境保全の意識が高い児童が多いことがうかがえます。

### ④ 環境学習について

地球温暖化やごみの分別など環境問題について何から学んだかについて質問した結果、「学校から」という意見が突出して多く、次いで「テレビやラジオから」の順になっています。学校での環境についての学習の成果と考えられます。

また、環境についてどんなことを学びたいかについては、「動物や植物を守る方法のこと」という意見が最も多く、次いで「空気や川の水をきれいにする方法のこと」、「放射線についてのこと」の順になっています。環境問題について学びたい児童が多いことがうかがえます。

### ⑤ 本市の将来環境について

二本松市の将来環境については、「ごみのないきれいなまちにする」という意見が最も多く、次いで「緑の多いまちにする」、「川がきれいなまちにする」の順になっています。

「今のままでよい」との回答は少なく、現状より環境が豊かなまちにしたいと考えていることがうかがえます。

### (3) 事業者

#### ① 環境への負荷について

環境への負荷については、「環境負荷なし」という意見が最も多く、次いで「騒音・振動の発生」、「廃棄物の排出」、「温室効果ガスの排出」の順になっています。多くの事業所が環境への負荷を減らすことを意識していることがうかがえます。

#### ② 資源・エネルギーについて

資源・エネルギーの使用については、電気エネルギーやガソリンを利用しているという意見が多くなっています。

また、資源・エネルギーに関する取り組みについては、「ごみの分別・リサイクルの推進」という意見が多く、次いで「照明器具等の節電」の順になっています。ごみ問題やエネルギー問題への関心の高さがうかがえます。

#### ③ 廃棄物について

廃棄物の処理については、「特に困っていることはない」との回答が最も多く、次いで「廃棄物の処理に多額の費用がかかる」の順に多くなっています。

また、廃棄物に関する取り組みについては、「廃棄物等の適正分別及び適正処理（リサイクルへの協力）」という意見が突出して多くなっています。多くの事業所において分別やリサイクルが適切に行われていることがうかがえます。

#### ④ 環境保全への取り組みについて

環境保全の取り組みについては、「事業所として社員・従業員に対して環境教育や学習の場を提供している」という意見が最も多くなっています。

環境保全に取り組む際に必要なものについては、「環境改善のための資金」という意見が最も多く、次いで「環境改善技術の情報の提供」の順になっています。「資金」と「情報提供」の両面からのサポートを求めている状況がうかがえます。

#### ⑤ 環境に対する関心事について

環境に対する関心事については、「地域の環境保全に関心がある」という意見が最も多く、次いで「地球環境問題に関心がある」の順となり、環境問題に対する関心の高さがうかがえます。

また、環境に対する取り組みを実施または参加・協力しているものについては、「資源ごみ回収・環境美化・清掃活動」という意見が最も多く、地域のごみ問題や環境美化へ貢献している事業所が多いことがうかがえます。